

Economic Monitor

FOMC 後の記者会見は本当に必要か？

Fed は 3 月 24 日に、金融政策に関するコミュニケーションの透明性 (clarity) や適時性 (timeliness) を向上させるため、バーナンキ議長が定期的に年 4 回、FOMC の景気見通しと金融政策決定を説明する記者会見を行うと発表した。2011 年については既に 1 月と 3 月の FOMC が終了しているため、4 月、6 月、11 月の 3 回、FOMC の終了後に記者会見を行う予定である (スケジュールは別表参照)

FOMC は年 8 回開催されており、記者会見はその半数において行われることになる。なお、FOMC は 1 日の場合と 2 日の場合がある。Fed が具体的に言及した訳ではないが、2011 年の日程を参考にする限り、2 日に渡って詳細な議論を尽くす FOMC の終了後に記者会見を開催するとの主旨と推察できる。

今回のバーナンキ議長による記者会見開催については、透明性向上として評価する意見が大勢を占める模様である。しかし、当社ではマイナス面も大きいと考えている。

FOMC という点に限れば、確かに Fed の透明性は他の中央銀行に劣っていたかも知れない。日銀は決定会合後に金融政策の決定内容とその背景をステートメントとして公表した上で、白川総裁が記者会見を行っている。また、ECB は金融政策の決定内容のみ公表し、トリシェ総裁が記者会見の中で背景説明を行い、質疑応答に答えている。今回の Fed の決定によって、三つの中央銀行の透明性は概ね並ぶが、敢えて順位をつければ、日銀がフロントランナーで、ECB と Fed が同順位だろうか。一部の市場関係者が求めるように、バーナンキ議長の記者会見が毎回 (年 8 回) となれば、Fed が ECB を抜いて日銀に並ぶ。

ただ、決定会合後のステートメントや記者会見だけで金融政策の透明性が決まるわけではない。中央銀行関係者が行う講演や寄稿などの情報発信の内容や頻度も重要である。昨年は QE2 (量的緩和第二弾) の実施に際して、Fed 関係者が講演や寄稿によってバーチャル FOMC を開催したことで、QE2 の目的や問題点が明らかにされ、金融市場関係者の理解も深まった。そうした点を考慮すれば、従来から、三つの中央銀行の中で、Fed が最も透明性に優れていたとも評価できる。

加えて、透明性を向上させることが必ずしも良いとは限らない。金融政策を決定する中央銀行関係者は万能ではなく、先行きの判断に悩むことも、間違ふこともある。そうした部分を曖昧なままで残して置くことは、金融政策の有効性を高める上での必要悪と考えられる。「過ぎたるは及ばざるが如し」との格言もある。

透明性向上の難しいところは、逆戻りが出来ない点である。今回の透明性向上を目指した方策が、結果的に金融政策の有効性を損なうことになっても、再び透明性を低下させるという選択は民主主義において認められない。Fed が講じた今回の透明性向上策が、将来的に Fed の首を締めることも十分にありうる。

FOMCのスケジュール

2011/1/25-26	(記者会見)
2011/3/15	
2011/4/26-27	記者会見
2011/6/21-22	記者会見
2011/8/9	
2011/9/20	
2011/11/1-2	記者会見
2011/12/13	

FOMCは年8回、記者会見は年4回

(出所) Fed